

<平成28年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

板橋区立志村第一中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年9月8日 (木)
- 場 所 : 板橋区立志村第一中学校
- ク ラ ス : 2年6組 (39名)
- オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー・スノーボード)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



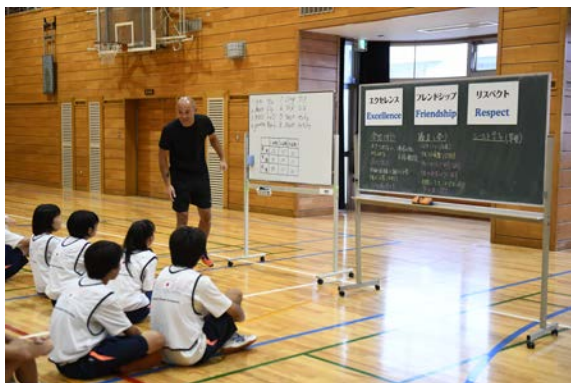
・ 鶴岡先生から自己紹介した後、運動の時間では、一生懸命全力で取り組むこと、仲間と協力して相談すること、人の話をよく聞いてルールを守ることの3つを約束し、準備体操に移る。

3. 主運動



・ 大縄8の字跳び (90秒×3回) を実施。90秒間に連続して跳べた回数を競う。途中で引っ掛かった場合はゼロから数え直すことをルールとした。

4. まとめ



・ 運動の時間を振り返り、次第に声が出るようになり、一生懸命考えて作戦を立て、集中していたことを伝え、冒頭に約束した3つことが守れていたことを確認し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・ オリンピックと日常生活をつなげて考えてみようという授業の目的を確認し、鶴岡先生が出場したオリンピックの映像を紹介しながらオリンピックバリューについて、自身の経験と共に分かりやすく説明。

3. グループワーク



- ・ 運動の時間の3つの約束を踏まえ、班毎に運動の時間に感じたオリンピックバリューについて考える。
- ・ 諦めない気持ち（エクセレンス）、チームメイトと声を掛け合った、勝つために仲間と気持ちをひとつにした（フレンドシップ）、苦手な人も跳べるように声を掛けた、相手の意見を尊重した（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ オリンピックで転倒してしまったという悔しい気持ちは今の鶴岡先生にとって大きな力となっている。これから先の人生において、上手くいくことばかりではなく、失敗することも悔しいことも、上手くいかないことがあるかもしれない。結果は成功の方が素晴らしいことだと感じるが、勝つことができなくてもそこに向かってどれだけ本気で取り組み、全力で努力できたかが大切だと伝える。
- ・ 結果を恐れず、常に全力で挑戦し続けることを忘れないでほしいと伝え、授業終了。

- 期 日 : 平成28年9月8日 (木)
- 場 所 : 板橋区立志村第一中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (38名)、2組 (39名)
- オリンピアン : 米倉 加奈子 先生 (バドミントン)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・今日の授業ではバドミントンを通してオリンピックの価値について考えようと目的を確認。米倉先生がスマッシュを打つデモンストレーションを実施した後、準備体操を実施。

3. 主運動



・3班に分かれてシャトルを使ったリレーを実施。
 ・米倉先生からオリンピックバリューに触れつつ、挑戦すること、工夫することの大切さを伝える。

4. まとめ



・運動の時間を振り返ってバリューを実践できていたかを問いかけ、次の座学の時間ではオリンピックバリューについてもっと考えようと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・各班で相談しながらオリンピックシンボルを描いてみる。米倉先生からシンボルに込められた意味や、近代オリンピックの復興について説明。
- ・アテネ大会の映像を見せ、米倉先生の経験に基づきオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- ・運動の時間に実践できていたオリンピックバリューについて考える。
- ・ベストを尽くした、失敗しても諦めずに挑戦した、力を合わせてがんばった、リスクを恐れない（エクセレンス）、作戦を立ててチームワークを向上させた、挑戦する人を応援した、仲間を信じてチームで支えあう（フレンドシップ）、ルールを守った、失敗しても責めなかった（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・米倉先生がオリンピックに出るまでの経験を通してオリンピックバリューを説明したが、皆が挙げてくれたように、日常生活にも当てはまるがあるので、今後の生活に活かしてほしいと伝える。
- ・2020年には東京でオリンピックが開催されるので、選手として、ボランティアとしてオリンピックに参加してほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年9月9日 (金)
- 場 所 : 板橋区立志村第一中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (39名)
- オリンピック : 村上 睦子 先生 (バスケットボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・村上先生より自己紹介した後、ルールを守り、どんなことでも全力で取り組むこと、皆で協力し合い、気持ちをひとつにすること、皆でアイデアを出し合い、チームで工夫していくこと、の3つを約束し準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・ドリブル氷鬼、生徒は決められた範囲内をドリブルしながら逃げる。鬼にタッチされたらボールを頭の上に掲げて足を広げて立ち、他生徒が足の間にボールを通したら復活できる。60秒後に生徒の半数以上が固まっていたら鬼の勝ち、半数以下だった場合は生徒の勝ちとした。
- ・パスリレー、スタート地点にボールを数個置き、生徒は15m程度の間隔に並んで如何にゴール地点に早くボールを運べるかを競う。

4. まとめ



- ・ルールは自由としたが、皆で考えて工夫ができていたことが素晴らしく、1人で考えるより、皆で話し合う方が多くの意見が出て、様々な工夫ができることを伝える。授業冒頭に約束した3つの約束が守れていたかを確認し、授業を終えた。



■授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・村上先生の経験を紹介するので、一緒にオリンピックについて考えてみようという目的を確認し、配布したシートにメモを取る等自由に使うように促す。スポーツを通して、勝った時の嬉しさ、負けた時の悔しさ、そこから学ぶことの多さ、友達を作れること等、目に見えないスポーツの力によって、平和でより良い世界を作るという考えがオリンピズムであると説明する。

3. グループワーク



- ①運動の時間に実践できていたバリューについて書き出す。
全力で取り組めた（エクセレンス）、チームで協力できた（フレンドシップ）、チームメイトが声をかけてくれた、競う相手がいたからがんばれた（リスペクト）
- ②日常生活で活かせるオリンピックバリューについて考える。
何事にも努力する（エクセレンス）、今まで話さなかった人と会話する、勉強を教えあう（フレンドシップ）、支えてくれる学校の先生や親に感謝する、環境に感謝する（リスペクト）

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは普段の生活の中に存在することを伝え、頭の片隅において、常に意識して行動することで自分の世界が変わってくると話す。これからオリンピックについて学ぶ機会があると思うが、その時は今日の授業を思い出してほしいと伝える。
- ・2020年に東京で開催されるオリンピックには、選手としてだけでなく、様々な形で大会に関わってほしいと伝え、授業を終えた。

- 期 日 : 平成28年9月9日 (金)
- 場 所 : 板橋区立志村第一中学校
- ク ラ ス : 2年4組 (39名)、5組 (38名)
- オリンピアン : 岡里 明美 先生 (バスケットボール)

■授業のながれ: 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・岡里先生より自己紹介した後、失敗や間違いを恐れず、元気に一生懸命、積極的に取り組むこと、チームで協力してアイデアを出し合うこと、先生が話している時や説明をしている時にボールを床につかないこと、の3つを約束し、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・パス回し、班毎に円になり、隣の人にはパスできないこと、全員にパスを回すこと、ボールを床に落としたらゼロから数え直すこと等をルールとした。
 ・シュート競争、各班ボールを5個用意し、全員で順番にシュートする。全てのボールを如何に早くシュートできるかを競う。

4. まとめ



・授業の冒頭に約束した3つのことを守れたか確認し、約束を守れた自分とクラス全員をお互いに拍手で称える。座学の時間では運動の時間に感じたこと、考えたこととオリンピックバリューとの関わりを考えようと予告し、授業を終えた。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・岡里先生が出場したオリンピックの映像を解説しながら、近代オリンピックの父であるクーベルタンを紹介し、スポーツを通して若者が健康な肉体と健全な精神を持つことで社会の発展を促し、文化を超えた友情が生まれることで世界平和に繋がるという願いが込められていると話す。

3. グループワーク



①運動の時間に感じたオリンピックバリューについて書き出す。

諦めずにシュートを決めた、シュートを入れるために全員努力した（エクセレンス）、仲間を思いやって協力した、絆を深められた、アドバイスがあった、シュートが決まったら全員で喜んだ（フレンドシップ）、アドバイスをくれた岡里先生への敬意、失敗した人を責めなかった、お互いの能力を褒めあう（リスペクト）

②普段の生活の中で活かせるオリンピックバリューについて考える。

新しいことに挑戦し続ける、オリンピックに出場する（エクセレンス）、仲間を大切にする（フレンドシップ）、学校の先生に感謝、親への敬意（リスペクト）

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは特別なものではなく、皆の周りに存在する。家族や先生への敬意があげられたが、自分自身をリスペクトすることを忘れないでほしい。どのようなことにも挑戦できる可能性を持っていて、どんな夢にも向かっていけるので、自分を大切にするのを忘れないでほしい。
- ・2020年に東京で開催されるオリンピックには選手として出場すること以外にもボランティアや通訳等、様々な形で参加することができるので、オリンピックに携わり、もっと身近に感じてほしいと伝え、授業を終えた。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組



■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 集 合 写 真

2年5組



2年6組





■ 記念品贈呈

■ 2年1組



■ 2年2組



■ 2年3組



■ 2年4組



■ 2年5組



■ 2年6組



■ 証明書贈呈

